

番号：140518

国名：カンボジア

担当：カンボジア事務所

案件名：淡水養殖改善・普及プロジェクトフェーズ2 終了時評価調査（評価分析）

1. 担当業務、格付等

- (1) 担当業務：評価分析
- (2) 格付：3号～4号
- (3) 業務の種類：調査団参团

2. 契約予定期間等

- (1) 全体期間：2014年8月上旬から2014年9月下旬まで
- (2) 業務M/M：国内 0.50M/M、現地 0.57M/M、合計 1.07M/M
- (3) 業務日数：

準備期間	現地業務期間	整理期間
5日	17日	5日

3. 簡易プロポーザル等提出部数、期限、方法

- (1) 簡易プロポーザル提出部数：1部
- (2) 見積書提出部数：1部
- (3) 提出期限：7月16日(12時まで)
- (4) 提出方法：専用アドレス (e-propo@jica.go.jp) への電子データの提出又は郵送(〒102-8012 東京都千代田区二番町5番地25二番町センタービル) (いずれも提出期限時刻必着)

※2014年2月26日以降の業務実施契約(単独型) 公示案件(再公示含む) より、電子媒体による簡易プロポーザルの提出を本格導入しています。

提出方法等詳細については JICA ホームページ(ホーム>JICA について>調達情報>お知らせ>「コンサルタント等契約における業務実施契約(単独型) 簡易プロポーザルの電子提出本格導入について」(http://www.jica.go.jp/announce/information/20140204_02.html)) をご覧ください。なお、JICA 本部1階調達部受付での受領は廃止しておりますので、ご持参いただいても受領致しかねます。ご留意ください。

4. 簡易プロポーザル評価項目及び配点

- (1) 業務の実施方針等：

①業務実施の基本方針	8点
②業務実施上のバックアップ体制等	2点
 - (2) 業務従事予定者の経験能力等：

①類似業務の経験	45点
②対象国又は同類似地域での業務経験	9点
③語学力	18点
④その他学位、資格等	18点
- (計100点)

類似業務	各種評価調査
対象国/類似地域	カンボジア/全途上国
語学の種類	英語

5. 条件等

- (1) 参加資格のない社等：

本調査の対象である技術協力プロジェクトにおいて専門家業務に携わった法人及び個人は本件への参加を認めない。

(2) 必要予防接種：なし

6. 業務の背景

カンボジアでは、約80%の労働人口が漁業を含む農業分野に従事しており、その生計を米に依存している。しかし、灌漑施設が不十分であることや、洪水や旱魃が頻発することなどから、農家の生計の多角化が重要な課題となっている。また、国民一人当たりの年間魚類消費量が52.4kgと世界で4番目の高さを誇り、特に淡水魚は最も容易に入手できるタンパク源のひとつであり、国民は動物性タンパク質摂取の75%を水産物に依存しているといわれている。作物や現金収入源の多様化といった観点からも、水田、水路、ため池などを利用した小規模養殖に対する関心は高い。しかし、国内では安定的な養殖種苗を供給する業者は少なく、その多くを周辺国からの輸入に依存している。さらに、農村地域では養殖の伝統がないため、飼育のノウハウと養殖用種苗の不足が農家の養殖実践の妨げになっていた。

このような状況に鑑み、カンボジアは、国家戦略開発計画（National Strategic Development Plan 2009-2013: NSDP）において、貧困住民の水産資源に対する持続的なアクセスの確立による、食料確保、栄養改善、収入源・生計手段の確保などの観点から、養殖技術普及を重視し、各種施策を展開している。

JICAは、これらのカンボジアによる努力を支援するため、2005年2月から2010年2月までの5年間、南部4州で小規模養殖を普及させることを目的とした技術協力プロジェクト「淡水養殖改善・普及計画（以下、フェーズ1）」を実施した。同プロジェクトでは、種苗生産農家を重点的に育成し、農家から農家への養殖技術の普及を行うアプローチ（Farmer-to-farmerアプローチ）により、対象村落の状況に適合した技術が農民の間で急速に拡大し、当初プロジェクト目標として掲げていた、養殖技術を行う小規模農家数4,400戸を達成しプロジェクトが終了した。

カンボジアは、フェーズ1の成果を活用しつつ、自然および社会環境に適した養殖技術の開発・改良およびその技術を全国的に普及させていくため、貧困度がより高く養殖環境が異なる地域を対象に、農林水産省水産局をカウンターパート(C/P)機関とし、2011年3月より2015年2月までの4年間の予定で本プロジェクトを実施中である。北西部（プルサット、バタンバン、シアマリアップ）において、①種苗生産・養殖技術の改善、②養殖普及事業に係る普及員の能力強化、③種苗生産農家の育成、④小規模増養殖活動の展開、⑤種苗生産農家ネットワークの強化・広域化を進めていくことにより、小規模養殖農家による養殖生産量が増加することを目指し、現在、5名の専門家（総括/養殖普及I/飼料開発、副総括/養殖普及I/養殖研修I、種苗生産/親魚養成管理、資源増殖、業務調整/養殖普及II）を派遣している。

今回実施の終了時評価調査では、カンボジア政府と合同で本プロジェクトの目標達成度や成果等を確認するとともに、今後のプロジェクト活動に対する提言及び今後の類似事業の実施にあたって教訓を導くことを目的とする。

7. 業務の内容

本業務従事者は、プロジェクトの協力について当初計画と活動実績、計画達成状況、評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性）を確認するために、必要なデータ、情報を収集、整理し、分析する。なお、JICA 事業評価における評価基準・手続きについては監督職員より情報提供を行う。

具体的担当事項は次のとおりとする。

(1) 国内準備期間（2014年8月中旬～8月下旬）

- ①既存の文献、報告書等（事業進捗報告書、業務完了報告書、調整委員会議事録、専門家報告書、活動実績資料等）をレビューし、プロジェクトの実績（投入、活動、アウトプット、プロジェクト目標達成度等）、実施プロセスを整理、分析する。
- ②既存のPDMに基づき、プロジェクトの実績、実施プロセス及び評価5項目ごとの調査項目とデータ収集方法、調査方法等を検討し、監督職員とも協議の上、評価グリッド（案）（和文・英文）を作成する。また、現地で入手、検証すべき情報を整理する。
- ③評価グリッド（案）に基づき、プロジェクト関係者（プロジェクト専門家、C/P機関、その他カンボジア側関係者（養殖・種苗農家等）、他ドナー等）に対する質問票（英文）を作

成する。

- ④対処方針会議等に参加する。

(2) 現地派遣期間 (2014年8月下旬～9月中旬)

- ①JICAカンボジア事務所等との打合せに参加する。
- ②プロジェクト関係者に対して、本終了時評価の評価手法について説明を行う。
- ③カンボジア側C/Pと協議した評価グリッドに基づき、事前に配布した質問票を回収、整理するとともにプロジェクト関係者に対するヒアリング等を行い、プロジェクト実績(投入、活動、アウトプット、プロジェクト目標達成度等)、実施プロセス等に関する情報、データの収集、整理を行う。
- ④収集した情報、データを分析し、プロジェクト実績の貢献、阻害要因を抽出する。
- ⑤国内準備並びに上記③及び④で得られた結果をもとに、他の調査団員及びカンボジア側C/P等とともに評価5項目の観点から評価を行い、評価報告書(案)(英文)の取りまとめを行う。
- ⑥調査結果や他団員及びカンボジア側C/P等からのコメント等を踏まえた上で、PDM及びPOの修正案(和文・英文)の取りまとめに協力する。
- ⑦合同評価報告書(案)に関する協議に参加し、協議を踏まえて同案を修正し、最終版を作成する。
- ⑧協議議事録(M/M)(英文)の作成に協力する。
- ⑨現地調査結果のJICAカンボジア事務所等への報告に参加する。

(3) 帰国後整理期間 (2014年9月中旬～9月下旬)

- ①評価調査結果要約表(案)(和文・英文)を作成する。
- ②帰国報告会に出席する。
- ③終了時評価調査報告書(和文)について、担当分野のドラフトを作成する。

8. 成果品等

業務の実施過程で作成、提出する報告書等は以下のとおり。

なお、本契約における成果品は(1)～(3)のすべてとする。

- (1) 合同評価報告書(英文)
- (2) 担当分野に係る終了時評価調査報告書(案)(和文)
- (3) 評価調査結果要約表(案)(和文・英文)

上記(1)～(3)については、電子データをもって提出することとする。

9. 見積書作成に係る留意点

本公示の積算を行うにあたっては、「JICAコンサルタント等契約における見積書作成ガイドライン」(<http://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/quotation.html>)を参照願います。留意点は以下のとおり。

- (1) 航空賃及び日当・宿泊料等

航空賃及び日当・宿泊料等は契約に含めず、当機構より別途支給します(見積書の航空賃及び日当・宿泊料等欄には0円と記載下さい)。

10. 特記事項

- (1) 業務日程／執務環境

- ①現地業務日程

本業務従事者の現地調査期間は2014年8月26日～2014年9月11日を予定しています。

本業務従事者は、当機構の調査団員に4日間先行して現地調査の開始を予定しています。

- ②現地での業務体制

本業務に係る調査団構成は、以下のとおりです。

- ア) 総括(JICA)

- イ) 淡水養殖技術 (JICA)
- ウ) 協力企画 (JICA)
- エ) 評価計画 (JICA)
- オ) 農漁村社会開発 (大学)
- カ) 評価分析 (コンサルタント)

③ 便宜供与内容

当機構カンボジア事務所及びプロジェクトチームによる便宜供与事項は以下のとおりです。

- ア) 空港送迎
あり
- イ) 宿舎手配
あり
- ウ) 車両借上げ
全行程に対する移動車両の提供 (機構職員等の調査期間については、職員等と同乗することとなります。)
- エ) 通訳備上
なし
- オ) 現地日程のアレンジ
現地ヒアリング調査のスケジュールアレンジ及び長期専門家及びC/Pの同行
- カ) 執務スペースの提供
プロジェクトオフィス内の執務スペース提供

(2) 参考資料

本業務に関する以下の資料が当機構図書館のウェブサイト (<http://libopac.jica.go.jp/>) で公開されています。

- ・カンボジア王国 淡水養殖改善・普及計画(フェーズ2) 詳細計画策定調査報告書
- ・カンボジア王国 淡水養殖改善・普及計画フェーズ2 中間レビュー調査報告書

(3) その他

業務実施契約 (単独型) については、単独 (1名) の業務従事者の提案を求めている制度ですので、複数の業務従事者によるプロポーザルは無効とさせていただきます。

以上